

1. 事業（工事）概要

発注機関名	
事業（工事）名	
事業（工事）施工場所	
事業（工事）概要等	
事業（工事）着手予定時期	

2. 建設資材利用計画

建設資材	利用量	現場内利用 可能量	再生材利用 可能量	新材利用 可能量	再生資源利用率 (+) / × 100	備 考
土 砂	地山m ³	地山m ³	地山m ³	地山m ³	%	
砕 石	トン	トン	トン	トン	%	
アスファルト混合物	トン	トン	トン	トン	%	
	トン	トン	トン	トン	%	

最下段には、その他の再生資材を使用する場合に記入する。

3. 建設副産物搬出計画

建設副産物の種類	発生量	現場内利用 可能量	他工事への 搬出可能量	再資源化施設 への搬出可能量	最終処分量	現場内利用率 (/ × 100)	備 考
建設発生土	地山m ³	地山m ³	地山m ³		地山m ³	%	
コンクリート塊	トン	トン	トン	トン		%	
アスファルト・ コンクリート塊	トン	トン	トン	トン		%	
建設汚泥	トン	トン	トン	トン		%	
取りこわし建物	件						

地図、航空写真、踏査等から検討する。

利用可能量等は、現時点で算出可能なものとする。

建設副産物の搬出計画について、基本的には全量を再利用することを原則として計画する。

1. 設計概要

発注機関名	
委託名	
履行場所	
設計概要等	
工事着手予定時期	

2. 建設資材利用計画

建設資材	利用量	現場内利用 可能量	再生材利用 可能量	新材利用 可能量	再生資源利用率 (+) / × 100	備 考
土 砂	地山m ³	地山m ³	地山m ³	地山m ³	%	
砕 石	ト ン	ト ン	ト ン	ト ン	%	
アスファルト混合物	ト ン	ト ン	ト ン	ト ン	%	
	ト ン	ト ン	ト ン	ト ン	%	

最下段には、その他の再生資材を使用する場合に記入する。

3. 建設副産物搬出計画

建設副産物の種類		発生量	現場内 利用可能量	他工事への 搬出可能量	再資源化施設 への搬出可能量	最終処分量	現場内利用率 (/ × 100)	備 考
建設発生土	第1種建設発生土	地山m ³	地山m ³	地山m ³		地山m ³	%	
	第2種建設発生土	地山m ³	地山m ³	地山m ³		地山m ³	%	
	第3種建設発生土	地山m ³	地山m ³	地山m ³		地山m ³	%	
	第4種建設発生土	地山m ³	地山m ³	地山m ³		地山m ³	%	
	泥土（浚渫土）	地山m ³	地山m ³	地山m ³		地山m ³	%	
	合 計	地山m ³	地山m ³	地山m ³		地山m ³	%	
	コンクリート塊	ト ン	ト ン	ト ン	ト ン		%	
	アスファルト・コンクリート塊	ト ン	ト ン	ト ン	ト ン		%	
	建設発生木材	ト ン	ト ン	ト ン	ト ン		%	
	建設汚泥	ト ン	ト ン	ト ン	ト ン		%	

建設発生土の区分（既存資料から判断するものとする）

第1種建設発生土...砂、礫及びこれらに準ずるもの。

第2種建設発生土...砂質土、礫質土及びこれらに準ずるもの。

第3種建設発生土...通常の施工性が確保される粘性土及びこれらに準ずるもの。

第4種建設発生土...粘性土及びこれらに準ずるもの。（第3種建設発生土を除く）

泥土（浚渫土） ...浚渫土のうち概ねq c 2以下のもの。

建設発生木材の中には、伐開除根材を含む。

利用・搬出可能量は、現時点で算出可能なものを記載する。

建設副産物の搬出計画について、基本的には全量を再利用することを原則として計画する。

1. 事業（工事）概要

発注機関名	
工事名	
施工場所	
工事概要等	
工期（予定）	

2. 建設資材利用計画

建設資材	利用量	現場内利用量	再生材利用量	新材利用量	再生資源利用率 (+) / × 100	備考
土 砂	地山m ³	地山m ³	地山m ³	地山m ³	%	
砕石（クラッシャーラン）	トン	トン	トン	トン	%	
砕石（クラッシャーラン以外）	トン	トン	トン	トン	%	
アスファルト混合物	トン	トン	トン	トン	%	
	トン	トン	トン	トン	%	

最下段には、その他の再生資材を使用する場合に記入する。

3. 建設副産物搬出計画

建設副産物の種類	発生量	現場内利用量 (減量化量)	他工事への 搬出量	再資源化施設 への搬出量	ストックヤードへの搬出量	減容化、焼却 施設への搬出量	現場内利用率 / × 100	有効利用率 (~) / × 100	再資源化縮減率 (~) / × 100	備考
建設発生土	第1種建設発生土	地山m ³	地山m ³	地山m ³	地山m ³	地山m ³	%	%	%	
	第2種建設発生土	地山m ³	地山m ³	地山m ³	地山m ³	地山m ³	%	%	%	
	第3種建設発生土	地山m ³	地山m ³	地山m ³	地山m ³	地山m ³	%	%	%	
	第4種建設発生土	地山m ³	地山m ³	地山m ³	地山m ³	地山m ³	%	%	%	
	泥土（浚渫土）	地山m ³	地山m ³	地山m ³	地山m ³	地山m ³	%	%	%	
合計	地山m ³	地山m ³	地山m ³	地山m ³	地山m ³	%	%	%		
コンクリート塊	トン	トン	トン	トン			%	%		
アスファルト・コンクリート塊	トン	トン	トン	トン			%	%		
建設発生木材	トン	トン	トン	トン		トン	%	%	%	
建設汚泥	トン	トン	トン	トン		トン	%	%	%	

建設発生土の区分（既存資料から判断するものとする）

第1種建設発生土...砂、礫及びこれらに準ずるもの。

第2種建設発生土...砂質土、礫質土及びこれらに準ずるもの。

第3種建設発生土...通常の施工性が確保される粘性土及びこれらに準ずるもの。

第4種建設発生土...粘性土及びこれらに準ずるもの。

泥土（浚渫土）...浚渫土のうち概ね q c 2 以下のもの。

建設発生木材の中には、伐開除根材を含む。

建設発生木材、建設汚泥の、「現場内利用量」の欄には、上段に現場内利用、下段に現場内での減量化量を記入する。

「ストックヤードへの搬出量」には、他工事に再利用されることが予定される場合のみ記入する。「他工事」には、他機関の公共工事も含む。